

令和7年度都立両国高校における教科指導の重点

教科	重点課題	取組	発展的取組
国語	自己の内面を磨く力及び豊かな人間関係を築く力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なジャンルの文章やスピーチなどに触れ多角的に施行する能力の育成を図る。 ・スピーチやディベートの練習を通して自己の思考を発信していく力を涵養する。 ・評論や小説を読み、自身の考えを文章にまとめる指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」とも連携しながら、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄についての文章に触れ、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして自分の主張を表現する力を育成する。
地理歴史 公民	グローバル化する国際社会における平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者としての資質の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な地域の歴史や、地理的条件、文化・社会の特徴を学び、それらを尊重しつつ多面的・多角的に考察する力を養う。 ・意見交換や協働的な活動を通して、社会の形成者としての資質を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を通じて現代社会が抱える様々な課題について追究し、その内容や解決策について考え、それを表現する力を養う。 ・「総合的な探究の時間」とも連携しながら、現代社会が抱える様々な課題について追究し、その内容を分析し、解決策について考え、それを表現・発信する力を養う。
数学	数学的なものの見方・考え方の重視	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の事象を数理的に捉え、数学的に処理・表現することを通して、問題を解決したり、解決に至る過程を振り返る指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」とも連携しながら、数理的処理・表現の練度を向上するよう指導する。 ・問題解決に至る複数のプロセスを比較して、総合的に判断する能力を育成するよう指導する。
理科	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・物理・化学・生物・地学専門の教員による受験により分断されない6年間を見通した計画的で継続的な指導を行う。 ・実験・実習・観察など体験型の授業をできるだけ多く実施する。 ・講義形式の授業においても深い思考を要する問題を多く取り入れ、自ら考える力を養成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」と連携しながら、結果の記録の仕方やデータの処理の仕方、レポートの書き方、結果の発表の仕方などについて指導し、科学的な思考力や表現力を養成する。 ・大学の教育資源（専門的・学術的知識をもった大学教員による出前授業等）を積極的に活用し、大学レベルの教育・研究に触れる機会を充実させる。
保健体育	発達段階に応じた体力の向上と運動の合理的な実践	<ul style="list-style-type: none"> ・中学1年・2年を基礎期として、運動の楽しさを身につける。 ・中学3年・高校1年を充実期として、基礎能力を活用して実践する。 ・高校2年・3年を発展期として、自分で考え、計画的に運動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎期は運動の楽しさを知り、集団行動のルールや運動の特性に応じた学び方や安全確保について理解する。 ・充実期は積極的に運動に親しみ、自分の体力や能力に合わせて練習や計画を工夫できるようにする。 ・発展期は多くの運動領域・種目を経験し、集団や個人の技術を高め、生涯体育・生涯スポーツを実践する能力や態度を身につける。
芸術	生涯に渡って芸術に親しみ、主体的に表現や鑑賞を楽しむことのできる感性を育む教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館・博物館の企画展や催しのポスターを掲示し授業の中でも紹介することで、校外のイベントに積極的に参加するきっかけとする。 ・幅広い活動を通して、表現力・協調性を養う指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の宿題として町中にあるデザインやアートに着目してもらい課題を課し、アートの視点の育成を目指す。 ・箏曲の演奏を鑑賞し、日本の伝統音楽や文化に対する理解を深める。
英語	4技能5領域の技量の育成と自己を表現する力・問題解決能力の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む・書く・聞く・話す」の能力を育成する。 ・オーラルプレゼンテーション、スキット、ライティングテストなど、パフォーマンステストを各学期に2回以上行う。 ・授業に関連したトピックについて自己の意見を述べる機会を設け、問題解決能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン英会話を活用して、会話力・コミュニケーション能力を育成する。 ・「総合的な探究の時間」と連携しながら、時事問題や社会問題の解決に向けて考える機会を設ける。 ・国際交流など、学校での行事を活用し、グローバルに活躍できるための視野を広げる機会を設ける。 ・外部検定試験やスピーチコンテストなどを活用して、生徒の英語力向上に努める。
家庭	生涯を見通した課題解決能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の営みを人の一生というライフステージでとらえ、生涯を見通す時間軸の広がりを持って学びを深めていく。 ・実験・実習・観察など体験型の授業をできるだけ多く実施する。 ・具体的な実践内容・解決方法を検討し、解決の見通しを持って実践計画を立てさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」と連携しながら、生涯を見通した視点で物事を捉え、食や金融関係においては専門的な分野の講師を招き、学びを深める。
情報	情報活用能力を活用した「課題解決能力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・音や画像のデジタル処理など、情報の科学的な見方、考え方を身につけながら、身近な問題を、情報技術を活用して解決する力や、思考力を養う。 ・プログラミングを通して、問題を解決するための手順を論理的に考えながら組み立てる思考を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」と連携しながら、問題解決の手順において、情報技術を適切に活用し、データの収集や整理・補完をし、シミュレーションを行うなど、情報技術を活用したより高度な問題解決の実践を行う。